

鹿児島観光ハッカソン開催結果レポート

2022年11月19日

1. はじめに

鹿児島県では、企業の「稼ぐ力」の向上に向けて、事業者のニーズの掘り起こしから事業化・販路拡大までの各段階に応じた支援を行う「新産業創出ネットワーク事業」を実施しています。この一環として、昨年度から、ITの活用により鹿児島県の地域課題の解決を図るイベント「アイデアソン・ハッカソン」を開催し、新しいアイデアを基盤とした新産業の創出に取り組んでいます。

このたび、参加者が単に自分たちの技術を競いあうのではなく、「鹿児島県の観光」に関する様々な課題に対して、デジタル技術を活用し、これまでにないアイデア（サービス・商品・解決方法）を考え出すことを目的として、「鹿児島観光ハッカソン」を開催しました。

参加者はエンジニアだけでなく、ビジネス企画を考えるプランナーや、営業戦略を考えるマーケター、ユーザーが使いやすいデザインを考えるデザイナー、地元の学生などが全国から集まり、様々なスキルを持ったメンバーでアイデアを考え抜きました。その結果について報告します。

(写真① 開催の様子)



※ハッカソンって何？

ハッカソンとは、ハック (Hack) とマラソン (Marathon) を掛け合わせて作られた造語です。ITエンジニアやデザイナーなどが集まってチームを作り、特定のテーマに対してそれぞれが意見やアイデアを出し合い、決められた期間内で製品やサービス等の試作品を作り上げるイベントです。その開発の際にはマラソンのように数時間から数日間といった時間、プログラミングに没頭することからマラソンに例えられています。

2. 開催概要

(1) 概要

主催：鹿児島県

受託事業者：(公財)かごしま産業支援センター

後援：(一社)鹿児島県情報サービス産業協会、NPO法人鹿児島県インフार्メーション、
鹿児島大学南九州・南西諸島域イノベーションセンター、(公社)鹿児島県観光連盟

協力：出水市、薩摩川内市、湧水町

企画・運営：株式会社ウフル

参加者：18名(※1名は途中棄権)

(2) 日程

令和4年11月12日(土)～11月19日(土)

- ・フィールドワーク : 11月12日(土) 9:00～18:00
- ・アイデアソン : 11月13日(日) 10:00～18:00
- ・ハッカソン : 11月14日(月)～11月18日(金) 各チームオンライン開催
- ・成果発表会 : 11月19日(土) 15:00～17:30

(3) 主な流れ

①フィールドワーク(事前課題インプット)

実際に課題がありそうな現場を直接参加者に見ていただき(フィールドワーク)、課題の発掘を行います。今回は、出水市、薩摩川内市、湧水町の3市町を訪問し課題の深堀を行いました。

②アイデアソン(課題分析・解決アイデア出し)

各地の観光に関する課題説明を聞いて、課題の整理と解決するためのアイデア出しをプランナー、エンジニア等と一緒にディスカッションを行います。

③ハッカソン(プロトタイプ作成・プレゼン準備)

エンジニアを中心にアイデアソンで出たアイデアを実現するためのデモアプリを作成します。プランナーは最終成果発表のプレゼンの準備を行います。

④成果発表

解決する課題とアイデアとデモの説明を行い、審査員による採点を行います。採点結果から優勝、準優勝、特別賞を決め表彰を行います。

(4) 参加者

①Aチーム「ツルでバ鶴」(出水市課題解決)

(写真② Aチーム)



- ・域内交通手段の情報提供、アナログな管理手法の課題を持つ「出水市」の観光課題解決に挑むのはチームA「ツルでバ鶴」チームです。
- ・出水市はラムサール条約に登録されている湿地や、鶴の越冬地、日本最大級の武家屋敷を擁していますが、その一つ一つがシームレスにつながっていないこと、域内での観光客の移動について課題に感じていました。
- ・チームAは鹿児島県内から4名、県外から2名の参加。大手・地元システム会社社員や、公的団体の職員で編成されており、他のチームと比べても開発ができる人が多いチーム構成となっています。

②Bチーム「ちゃいっぺこしき」（薩摩川内市課題解決）
 (写真③ Bチーム)



- ・厳しい自然環境と豊かな観光資源を持つ甬島（こしきじま）がある「薩摩川内市」の観光課題解決に挑むのはチームB「ちゃいっぺこしき」チームです。
- ・薩摩川内市の甬島は川内港から高速船で約1時間強と、身近に行ける離島でありながら、多くの観光資源を持ち、釣りやマリンスポーツ、登山やマラソンをする観光客が多く訪れます。一方で、冬

の海が荒れることなどでフェリーが欠航するなどもあり、観光客が冬場に大きく落ち込むことを課題に感じていました。

- ・チームBは鹿児島県内から3名、県外から2名の参加。薩摩川内市の観光課とは違う部署の職員、システムエンジニア・プランナー、学生と、参加者は年齢も業種もばらばらですが、バランスよく様々なことができる人たちで構成されたチームとなっています。

③Cチーム「湧く湧く湧水」(湧水町課題解決)

(写真④ Cチーム)



- ・日本名水にも選ばれている丸池湧水など、豊富な自然観光地を擁する「湧水町」の観光課題解決に挑むのはチームC「湧く湧く湧水」チームです。
- ・湧水町は鹿児島空港から車で約30分、まわりを霧島市や伊佐市などに囲まれ、多くの観光客の通過点となっていること、湧水町に宿泊してもらえないことで観光収入が低くなってしまいうことを課題に感じていました。
- ・チームCは鹿児島県内から4名、県外から2名の参加。デザイナーが3名、エンジニアに地元自治体職員、地元でUターンしたい若者と個性的な構成となっており、なかでもデザイナーが多いためデザイン性が高い提案が期待できるチームとなっています。

(4) 募集

①募集期間

令和4年10月6日から11月10日まで

②募集方法

- ・エンジニアが多く活用する外部サイト「connpass」を利用
- ・鹿児島県、鹿児島県産業支援センター等のホームページやメールマガジンでの周知
- ・各種SNSでの動画拡散
- ・口コミや地域おこし協力隊のコミュニティへの通達

- ・事前に YouTube での動画チャンネルの解説
(参考画像① connpass での募集の様子)

The screenshot shows the event page on connpass. The event is titled '鹿児島観光ハッカソン' (Kagoshima Tourism Hackathon) and is scheduled for November 12, 2022, from 09:00 to 17:00. The event is organized by '株式会社ウフル' (Ufuru Co., Ltd.) and has 240 participants and 629 members. The event is categorized as 'Smart Business Roadshow in 和歌山'.

The event details section lists three teams:

チーム名	募集内容	先着順	人数
チームA	誰でもわかる観光地への交通手段の案内	無料	6/7人
チームB	観光客開散時に観光客を呼び込むための方策	無料	6/7人
チームC	宿泊施設不足を解消するための方策	無料	6/7人

The event description section includes the following information:

- ※イベントの参加募集を開始しました。(10/3)
- ※各チーム自治体の魅力・課題感を紹介するYouTubeチャンネルを開設しました。(10/3)
- <https://www.youtube.com/channel/UCER6nXYapO64xsCPOiRTORu>
- ※薩摩川内市観光局より、現地の観光関係者から課題をヒアリングしました。(10/26)
- https://youtu.be/_D9g228QvU
- ※「初心者」でも参加できますか?というお問い合わせをいただきました。ハッカソンが初めての方でも歓迎いたします!事務局がサポートしますので安心してご参加ください
- ※薩摩川内市の現地観光関連のインタビュー動画をアップロードしました。(11/4)
- <https://youtu.be/gnmzwnmsLCE>

The event overview section states: '鹿児島県では、企業の「稼ぐ力」の向上に向けて、事業者のニーズの掘り起こしから事業化・販路拡大までの各段階に応じた支援を行う「新産業創出ネットワーク事業」を実施しており、この一環として、昨年夏から、ITの活用により本県の地域課題の

(参考画像②) YouTube 鹿児島観光ハッカソンチャンネル

The screenshot shows the YouTube channel page for '鹿児島観光ハッカソン' (@user-413b84zp8v). The channel has 14 subscribers. The video list includes:

- 【鹿児島観光ハッカソン】DAY2課題整理会場の様子③ (10回視聴・10日前)
- 【鹿児島観光ハッカソン】DAY1 チームA フィールドワ... (25回視聴・12日前)
- 【鹿児島観光ハッカソン】DAY2課題整理 会場の様子... (13回視聴・12日前)
- 【鹿児島観光ハッカソン】DAY1 チームC フィールドワ... (13回視聴・12日前)
- 【鹿児島観光ハッカソン】DAY2課題整理 会場の様子 (3回視聴・12日前)

(参考画像③ SNS での動画告知 (再生回数は 500 回以上を記録))



③チラシ制作

- ・ 鹿児島観光ハッカソンのテーマにふさわしいデザインをウフルにおいて制作し、募集チラシとして活用。
- ・ 特に、課題解決という後ろ向きではなく、新しいサービスや商品を生み出す前向きさをPRしたデザインとして選定。

(参考画像④ 鹿児島観光ハッカソンチラシ)



3. フィールドワーク

(1) チームA (出上市)

- ・当初、出水市からは、出水市内にある観光地がばらばらで、交通アクセスが悪く、観光客の満足度が低い原因となっている課題を解決したい意向であった。
- ・チームAが出水市をフィールドワーク。主に「クレインパーク」、「ツル観察センター」、「日本一の大鈴」、「出水麓歴史館」を訪問。
- ・フィールドワークの結果、出水市にあるたくさんの“日本一”について知らない参加者も多く、観光資源の周知や広報にも課題があるのではという考察に至り、喫緊の出水市の課題は情報発信を改善することではないかと意見を整理した。

(写真⑤ 日本一の八幡大鈴)



(2) チームB (薩摩川内市)

- ・当初、薩摩川内市からは甕島の冬の観光客の少なさや、島に渡ったあとの交通手段が限定されてしまい、せっかく来てくれている観光客に十分に楽しんでもらえていないのではないか、という課題を解決したい意向であった。
- ・チームBが薩摩川内市をフィールドワーク。時間の関係で甕島にわたることができなかったが、フェリー乗り場周辺の「甲冑工房」、「柳山アグリランド」、「国際交流センター」を訪問。また、チーム員が別途本イベント開催日まえに甕島を訪問し、現地のフィールドワークを別途実施。
- ・甕島の抱える観光課題について、そもそも甕島の認知度が県外からは高くないことや、宿泊施設やアクティビティの予約が全てバラバラであること、また冬にフェリーが不定期欠航しており、冬は欠航するという強いイメージが観光の足を止めてしまっている可能性に着目した。

(写真⑥ 甲冑工房)



(3) チームC (湧水町)

- ・当初、湧水町からは、町内の宿泊施設の少なさ、収容人数の少なさから、せっかく観光客が湧水町を訪れてくれている、町に落ちるお金が少ないのではないかと、周辺の観光地にとられているのではないかという課題が提案された。
- ・チームCが湧水町をフィールドワーク。町内の宿泊施設、キャンプ場として使えそうな遊休地、「丸池湧水」を訪問。またチーム員がハッカソン開催期間中に湧水町で野外キャンプを行い実際の宿泊のしやすさや町の魅力について深堀。
- ・宿泊施設も新型コロナウイルスの影響によって営業に大変苦労していることもわかり、単純に宿泊施設を増やすことが解決案ではないとチームCは考察し、アイデアの構築に入った。

(写真⑦ 宿泊施設横の貯水池)



4. ハッカソン

(1) 期間

令和4年11月14日(火)～11月18日(土)

(2) 概要

- ・各チームとも、ビジネスチャットツール“Slack”でコミュニケーションをとりながら、遠隔で開発に着手。期間中“Slack”での総ファイルやり取り数は171ファイル、メッセージは1,015件と5日間をフルに活用しすべてのチームがアイデアの制作にあたった。
- ・また“Zoom”などを活用したウェブ会議が全てのチームで行われており、様々なツールを駆使してコミュニケーションを実施。

(参考画像⑤ “Slack”でのコミュニケーションの様子)



(参考画像⑥ Zoomでの打ち合わせの様子)



(3) メンタリング

- ・オンラインサポーターとして、ジョイゾー株式会社の大竹氏、株式会社オノゴロの武居氏にボランティアで参加いただき、Kintone などの SaaS サービスの支援及びシステム構築におけるプロジェクト構築の支援をいただいた。
 - ・具体的に複数回の相談が両メンターになされ、多くのヒントを得ることができた。
- (参考画像⑦ メンター紹介)

<p>Kintoneサポート担当</p> <p>ジョイゾー株式会社 大竹 遼氏 BB(Big Boss)</p>  <p><small>kintone歴6年 新卒でサイボウズに入社し、kintone転職を経てジョイゾーでシステム39エンジニアを担当 kintoneに関することなら何でも相談してください!</small></p>	<p>SalesForce・SaaS全般担当</p> <p>株式会社オノゴロ 武居 竜也氏</p>  <p><small>得意分野：Salesforce構築、開発 2012年からSalesforceのシステム開発のプロジェクトに携わっております。 現在はマネジャーとしてチームの管理をしつつ、エンジニアとしてもシステム開発を行っています。 システム開発は上流から下流工程全般的に携わる</small></p>
---	---

5. 成果発表会

(1) 期日

令和4年11月19日(土) 15:00~17:30

(2) タイムスケジュール

- ・ 15:00 成果発表会開始
- ・ 16:10 審査
- ・ 16:40 結果発表
- ・ 17:30 閉会

(3) 審査員

- ・ (一社) 鹿児島県情報サービス産業協会 久永忠範 会長
- ・ 鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター 井立田剛 (特任専門員)
- ・ (公社) 鹿児島県観光連盟 倉野満 専務理事
- ・ (公財) かがしま産業支援センター 木場信人 理事長

(4) 審査基準

審査基準		中心となる審査対象
1. 新規性	<ul style="list-style-type: none"> • これまでにないアイデアか • 着眼点・着想点はユニークか 	アイデア
2. 実現性	<ul style="list-style-type: none"> • 技術的に実装可能か • 運用が回りそうか 	アイデア
3. 事業性	<ul style="list-style-type: none"> • 実際に利用される可能性が高いサービスか • 成長性・拡張性ととも採算は見込めるか 	ビジネスモデル
4. プロトタイピング	<ul style="list-style-type: none"> • コンセプトで提示された機能が実装され動作しているか • 新しい技術が使われているか 	プロトタイピング
5. プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> • テーマに沿った課題解決が提供されているか • 課題、解決方法、実装が論理的かつ簡潔に語られているか 	プレゼンテーション

(5) 発表内容

①チームA

- 出水市から提起された課題について、観光客の多くがツアーバスか自家用車できている現状を踏まえて、交通手段の案内が少ないことなどについては大きな課題として採用せず、住民が当たり前と思っていることが、実は県外の方から見ると魅力的な観光資源であるといった点に気づき、情報発信の見直しで観光客そのものを増やすシステムを主体とした提案を行った。
- 具体的にはAI チャットボットベースのコミュニケーションツル「ツルのひと声」システムを構築し、観光客の疑問や要望に応え、裏側では観光データを収集するシステムを提案。
- 「ツルのひと声」システムはAI チャットボットのシステムに加え、出水市の職員に直接相談ができる機能も実装しており、複雑な質問に対しては出水市商工観光課の担当職員と会話できる。
- さらに本システムのログをビッグデータとして活用することが可能であり、昨今話題となっているEBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案）に活用することが期待できる。
- ただし、観光客をただ増やすだけの提案だと、オーバーツーリズムや治安の悪化、環境の破壊など新たな課題も発生する可能性がある。そこで、本提案はあくまで地域の住民にも嬉しい提案となることを念頭に、出水市が力を入れている「農泊」などの活動とうまく連動させて出水市のファンを徐々に増やしていく提案とした。

(参考画像⑧ 発表資料表紙)



(参考画像⑨ ツルのひと声)

フィールドワークを経た今回の提案内容

「ツルのひと声」システムを提案

- 観光客と出水市の接点となる AIチャットロボットベースのコミュニケーションツル
- 出水市にきた人とのコミュニケーションを図り、観光地・交通アクセス・おすすめ情報を発信
- タビナカの駅など いろんな場所に QRコードつきポスターで神出鬼没
- 分散した情報を集約して、まるでコンシェルジュのように、あなただけの要望にツルっとマルっとお応えします

②チームB

- 薩摩川内市から提起された課題は、甕島の閑散期である冬季の観光客誘致や、島内での交通に難があることであり、チームBでは観光客の量や満足度などをウェブサービスを活用して改善する提案とした。
- 具体的に、まずは甕島の魅力を再度見直し、「甕島の魅力・文化を保ってきた島民の笑顔、挨拶、会話が観光資源である」として定義した。その観光資源と、甕島が抱える自然環境など特有の状況をまとめ、「こしき宣言」として観光客へPRしていくことを提案。
- さらに、島内の宿泊、アクティビティを一括して予約できるウェブサイトのプロトタイプを構築し、観光客が事前に島内の観光を楽しめるシステムを提案。実際に福岡から甕島に行くモデルをプレゼンテーションで披露した。また船が欠航した場合には、次回の甕島旅行で使える割引クーポンを発行する仕組みを兼ね備えており、欠航を怖がらずに観光客が予約できるシステムとしている。
- 本ウェブサイトはレンタカーの在庫オペレーションはもちろん、閑散期の需要喚起、冬のフェリー欠航確率（コシキアイランドブルー指数）も視覚的にわかるデザインを導入し、より観光客が安心して甕島を訪れる工夫が見られた。

(参考画像⑩ こしき宣言)

こしき宣言

- 📍こしきは名所旧跡ではありません、島民とその生活が資産です
- 🗺️こしきでは突然はなしかけられます、ナンパではありません
- 🗨️おしゃべりなスタバはありませんが、おしゃべりなちゃいっぺはあります
- 🚗タクシーは1台しかありません、土日はお休みです
- 🌊風と波の状況でフェリーが欠航する可能性があります、ご予約には余裕をもってお越しください

チーム名：ちゃいっぺこしき Uhuru鹿児島県観光ハッカソン プレゼンテーション

(参考画像⑪ コシキアイランドブルー指数)

補足③ コシキアイランドブルー指数

コシキ
アイランド
ブルー指数

100

コシキ
アイランド
ブルー指数

50

コシキ
アイランド
ブルー指数

20


冬のフェリーは常に欠航の恐れがあるという旅行者の認識を払拭させる

フェリー欠航の予測を可視化させて間接的に伝えることによってやわらかいコミュニケーションをとる

過去の雨・風・欠航実績からAI（機械学習）を用いて将来予測をたてる

コシキアイランドブルー指数とは

こしき島の観望が楽しめる度合いを指数として表現しています。指数は、様々な気象条件を考慮し、指数の値が高いほどよりよい気象条件で観望やアクティビティを楽しんでいただくことができます。フェリーの欠航可能性のご参考にもなります。



Prediction One
AIによるデータ分析をワンクリックで

SONY

チーム名：ちゃいっぺこしき Uhuru鹿児島県観光ハッカソン プレゼンテーション

③チームC

- ・湧水町から提起された課題は、湧水町の宿泊施設が多くはないこと、周辺自治体へ宿泊客を吸収されている課題についてであり、チームCとしては宿泊施設を増やすことではなく、湧水町へ訪問・通過する際に観光する人、キャンプをしにくる人を増やすなど、湧水町に“とまる”観光客を増やすことを提案。
- ・具体的に、サービスコンセプトを「とまるーん」とし、湧水町にある空き地、観光地、体験型イベントを観光客やキャンパーとつなげるシステムを提案。予約、決裁、チェックイン、チェックアウトの一切をオンライン上で完結できるシステムをプロトタイピングした。
- ・さらに、湧水町にすでにある観光資源を活用した体験型イベントを提案し、観光客が“とまる”理由をいくつも用意していくことを合わせて提案。
- ・また、「きれいな水といえば湧水」というブランドイメージを獲得し、全国からきれいな水を求めて観光客が訪れる街となるようなブランド化を意識した提案であった。

(参考画像⑫ とまる～ん)

サービス内容

■サービス名

とまるーん

湧水町の空き地(観光地含む)・空き家・体験型イベントを観光客やキャンパーとつなげるサービスです。湧水町に訪れる目的に応じて「と○」で管轄スペースの予約やイベントへの参加予約ができます。観光地、名水、特産品、宿泊を掛け合わせた新たな非日常体験を湧水町の魅力満載のパッケージとして観光客に提供することができます。

■サービスロゴ



■「とまるーん」の特徴

- 新たな宿泊施設を建てる必要がなく初期投資を少額でスタート!
- 空き地・空き家が活用され土地や家のオーナーや関係する漁水町民の収入に!
- 観光資源を点としてだけでなく線に組み合わせた体験として提供!

■システムイメージ



(参考画像⑪ 体験型イベントとの連携)



(6) 審査結果

- ①優勝チーム：チームB
- ②準優勝：チームC
- ③ウフル賞：チームA

	A	B	C
総合得点	64	68	65

(7) 審査員コメント及び総評

- ①鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター 井立田剛センター長（代理）
 - ・チームAはとても実現性の高い提案であった。もうひと声あれば、というところであった。
 - ・チームCはビジュアル的に内容的にもレベルの高い提案であった。水の上に泊まるというところで実現性については考える必要がある。
 - ・チームBは欠航したリスクなどに着目されるなど特色があり高評価であった。
- ②（公社）鹿児島県観光連盟 倉野満 専務理事
 - ・チームワークという観点で評価をした。ぜひ今後も現在のチームでの活動を続けていただき、鹿児島県内の別の地域でも活躍いただきたい。
 - ・今回は地元の方も刺激を受けたと思う。観光連盟の使命でもあるが、こういった観光に関する課題についても検討していきたい。
- ③（公財）かごしま産業支援センター 木場信人 理事長
 - ・チームAは地域おこしである。どうやって地元の協力を得るのか、その観点があり、さらにオーバーツーリズムの観点など、他のチームでは検討していないことを検討していたことを高く評価できる。
 - ・チームBについて、統一プラットフォームの素晴らしい提案であった。食べるものもおいしいのでぜひプラットフォームに加えてほしい。
 - ・チームCは非常にユニークな提案であった。これを経済効果にどうつなげていくのか、町の方も

含めて一緒に検討していただければありがたい。

④ (一社) 鹿児島県情報サービス産業協会 久永忠範 会長

- ・デジタルと観光でいろいろな深堀ができることがわかりとてもありがたい。今日お聞きした提案がほかにも使える地域がありそうである。
- ・チームAについては本システムでデータを活用して観光施策を考えることができることを高く評価している。魅力ある観光資源をどう他の地域に知ってもらえるのか、伝えていくことの課題についても解決を検討していただきたい。
- ・チームBについては、甕島特有の課題について深堀を行い、観光客がうれしい提案をいただいている。
- ・チームCについては、デザイン性が高く特色ある提案であった。課題であるのは実現性のところかと思う。
- ・審査会は各チームとも接戦であり、甲乙つけがたいところがあった。点差があるように見えるが、本当にすべての提案が素晴らしかった。ぜひ今後もこういったアイデアソン、ハッカソンを県内各地で開催することを検討していただきたい。

(8) 優勝・準優勝チームコメント

①優勝チーム (チームB)

- ・県外の方からの視点がとても勉強になった。市内にいると気づかない点も多かった。
- ・甕島は自然と人と食という観光の3大要素が飛びぬけている。新しく発信してプラットフォームを整備すれば海外からも人が呼べるだろう。
- ・化石がすぐそこかしら出てくることなど大きな観光コンテンツである。こういったところを押せば冬場の観光客誘致につながる。
- ・チーム員の個性がよくかみ合った。素晴らしいチームであった。

(薩摩川内市コメント)

- ・何か一つでもアイデアをもらえたらという気持ちで参加していた。一つどころではなく、行政マンが市役所で考えているだけでは思いつかないアイデアを考えていただき勉強となった。アイデアで終わらないよう、実現に向けて動いていきたい。

②準優勝チーム (チームC)

- ・このような機会をいただいたことがありがたく、さらに素晴らしいチーム員にも恵まれて感謝している。結果は残念であったが、多くの方と知り合うことができた。感謝している。

(湧水町コメント)

- ・良いアドバイスができなかったことが心残りである。次の機会がもしあればもっとよい支援ができるようにしたい。湧水町に目を向けていただいたこと自体がとてもありがたかった。今回の結果を持ち帰らせていただきたい。

③ウフル賞チーム (チームA)

- ・結果は残念ではあるが、出水市の素晴らしさが伝わったのであればよかった。近いうちに出水市

に足を運んでいただければ嬉しい。

(出水市(観光協会)コメント)

- ・結果は残念でしたが、チーム出水の方々は初めて出水市を訪れた方で構成されており、毎日遅くまで検討いただいた。今回の提案についてとても感謝している。今後の活用については出水市と観光協会です次の施策に生かしていきたい。

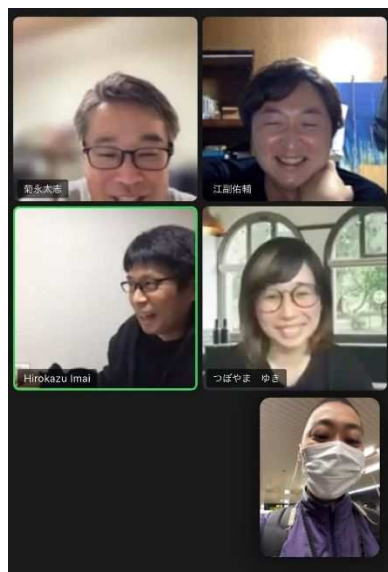
(写真⑧ 優勝チームB)



6. 閉会後の動き

- ・成果発表会後も検討を続け、鹿児島県ICTeI大賞に応募するチームもいる状況(12月7日提出締め切り)。
- ・3市町からは動画の提出を求められており、首長への報告や今後の予算要求にいかしていくことが報告されている状況。

(写真⑨ チームC ICTeI賞提出の打ち合わせの様子)



以上